



# 小松城



本丸天守台と堀石垣の一部が残る

所在地：石川県小松市丸の内町  
 別称：芦城、小松の浮城  
 立地：沼地、標高2m  
 城主：若林長門守、村上頼勝、丹羽長重、前田利常  
 時期：室町、戦国、江戸  
 見学時間（参考）：約30分

近世小松城は、梯川の蛇行により作られた下流の沼地を利用した平城で、梯川を天然の外堀とし、曲輪を渦巻き状に配置する渦郭式と呼ばれる構造で築かれた。梯川を堰き止めて水を堀に引き入れると8つの島が出現する様子から「小松の浮城」と呼ばれていた。



本丸天守台（現状）

天正4年（1576）頃、一向一揆の若林長門守が砦を築いたと「越登賀三州志」は伝えている。天正7年（1579）南加賀に進攻した織田方の柴田勝家により落城し、翌8年村上頼勝が能美郡を与えられて小松城主となった。頼勝は同11年に丹羽長秀の与力、同13年に堀秀政の与力として引き続き居城した。慶長3年（1598）松任城主丹羽長重が加増され小松城主となり、同5年関ヶ原合戦に際し、西軍に味方し金沢城主前田利長と戦い改易され、のち前田領として城代が置かれた。寛永16年（1639）三代前田利常は22万石の養老封として小松に隠居し、幕府の許可を得て小松城の大改修を始めた。現在、本丸櫓台石垣（天守台）と本丸堀石垣の一部のほかは大部分が消滅し、本丸・二の丸は県立小松高校校地に、三の丸は芦城公園になって



天守台北側  
「白山水」井戸跡



本丸天守台から南東方、霊峰白山を望む



いる。



二の丸鰻橋御門（來生寺）



鬼瓦に梅鉢紋が見られる

いしかわ城郭カードに関する最新情報・お問い合わせ  
 北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）  
 〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9  
 TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943  
 E-MAIL. contact@j-sampo.com  
 ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>